

# 報 告 書

2021年 2月 27日

活動実施団体名 行徳生物多様性フィールド  
ミュージアム研究会

責任者名：風呂田利夫

報告書作成者名：野長瀬雅樹

## 1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

フィールドミュージアム「行徳カニ探検隊」

## 2. 実施日

2020年8月29日

## 3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

## 4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時～ 保護区内の水路・干潟・海岸でカニを探し捕まえて観察

12時半 まとめと振り返り。解散

## 5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加10名(4家族 子供6名・保護者4名)

スタッフ3名

## 6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

市街地や倉庫群に囲まれた行徳鳥獣保護区。人工の自然保護区ながら、造成後40年以上が経過した当地には狭いながらも淡水・汽水・海水と繋がる連続的な湿地環境や樹林、ヨシ原など多様な環境が形成されています。フィールドミュージアムはそんな保護区の様々な生き物たちを知り、地域の生き物や保護区の自然に親しんでいこうという調査観察会です。

2020年度第1回目のテーマはカニ。保護区に生息するカニを探していきます。まずは保護区に入っすぐのセイゴ水道。潮が引いて現れた泥干潟にはヤマトオサガニが大量に見えます。テンションを上げつつ本土部の水路へ移動。こちらにいるのは子供の手のひらサイズのクロベンケイガニ。タモ網をふるって捕獲に挑戦。続く泥干潟の木道ではチゴガニがハサミを振るってダンス中。後ろのヨシ原では講師の風呂田氏がクシテガニを捕まえて解説しました。

最後は保護区内唯一の砂質の海岸。砂の上にはコメツキガニによる小さな砂団子が並びます。当日は気温がかなり上がったため、当初の予定を変更して各採集場所ごとに捕まえたカニの解説を行い、昼までで終了としました。2時間足らずの内に保護区に生息する20種中9種を確認出来ました。子供達は果敢にカニ取りに挑戦し、2歳児も怖がることなく触れていました。淡水の水路、海岸のヨシ原、泥の干潟、砂の海岸とそれぞれ異なる場所で暮らすカニたちの形や行動の違いなどを感じ取ってもらえたと思います。

## 7. 写真



淡水水路でカニ探し



水路で多いのはクロベンケイガニ



泥干潟の木道



クシテガニを捕まえた



捕獲したカニの観察と解説



砂地の海岸